

第5章 まとめ骨子（案）

第1節 離島における教育環境の課題

1-1 離島において高校が存在しないことに関すること

（検討会における意見）

- ・ 中学卒業後、進学をするためには島の外に出なければならない。
- ・ 島を出た場合、保護者の経済的な負担が重い。
- ・ 島が好きな子も、本島に出て活躍したいという子もいる。
- ・ 他の選択肢を考えることができていない。島には仕事もそんなにない。
- ・ 高校が無い環境の中で、それを合理化して「無い方が子どもは早く巣立つ」という考えも一つの知見。
- ・ 島に高校があることによりそこに通う高校生もプライドを持ち、小中学生もその姿を見ることにより、良い影響がある。高校が無いと、そのような環境が失われる。
- ・ 小規模な地域であっても教育の機会平等が必要。
- ・ 本島に行くことによる環境の変化が子どもたちの負担になる。
- ・ 子どもたちが通う場が選択肢として必要。

（アンケートによりあげられた課題）

- ・ 高校・大学が島にないこと
（中：32.0%(2位)、高：38.4%(1位)、中保護者：42.6%(1位)、高保護者：37.3%(2位)）

1-2 その他教育環境全般に関すること

（検討会における意見）

- ・ 小規模複式学級では、教科担当外の教員が教える必要があること。また、授業のための授業研究が2倍になること。
- ・ 同じ教科の先生方同士の話合いができない学校がある。
- ・ 教員の異動のサイクルが早く、引き継ぎが大変。
- ・ ICT を活用するとしても、ハード面（機器の準備）、ソフト面（授業内容の調整）の課題が大きい。
- ・ 生徒の成績状況のクラウド化による業務効率化。

（アンケートよりあげられた課題）

- ・ 学校の生徒数が少ないことに起因する課題
 - ①子どもたちの人間関係が固定化されること
 - ②児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない
 - ③部活動の種類や活動範囲に制約が大きい
- ・ 文化的なものにふれあう機会がすくないこと

第2節 現状と課題を踏まえた対応

2-1 高校等の無い離島において求められる教育の在り方

○小規模な地域、離島の子どものための教育機会確保のための方策として検討すべき事項は何か。

- ・高等学校設置（新規、既存学校の拡充 等）
- ・経済的な支援
- ・住まいの支援 等

○ICT を活用した高等学校を設置するとした場合の論点整理

以下のような事項について整理することが必要ではないか。

- ・どのような内容、形式の学校が望まれているのか
教育内容（進学、職業的な学習、部活 等）
学校の形態としては何が望ましいか（通学、通信 等）
- ・子どもたちが高等学校に望むことを実現するために整理すべきことは何か
 - ①地域の意向
 - ②県内の高校教育の現状・課題
 - ③県内外における多様な手法を活用した高校教育
 - ④具体的な事項（設置形態（全日制、通信制等）、内容（求められている教育内容）、設置主体（県、市町村、民間））

（参考）中高生が全日制高校の進学を希望する（した）理由（上位3位）

将来・希望の職業に就くために必要だから（中：68.3%、高：70.1%）

大学に進学したいから（中：45.0%、高45.8%）

部活動を頑張りたいから（中：28.7%、高27.1%）

2-2 その他の教育環境の改善

以下のような事項についても検討することが必要ではないか。

- ・離島、小規模校における教員の質の向上に資する研修等
- ・高校教育に限らず、教育の質の向上を図るための取組
（ICT を活用した文化的なものに触れ合う機会（先行事例：旭山動物園））